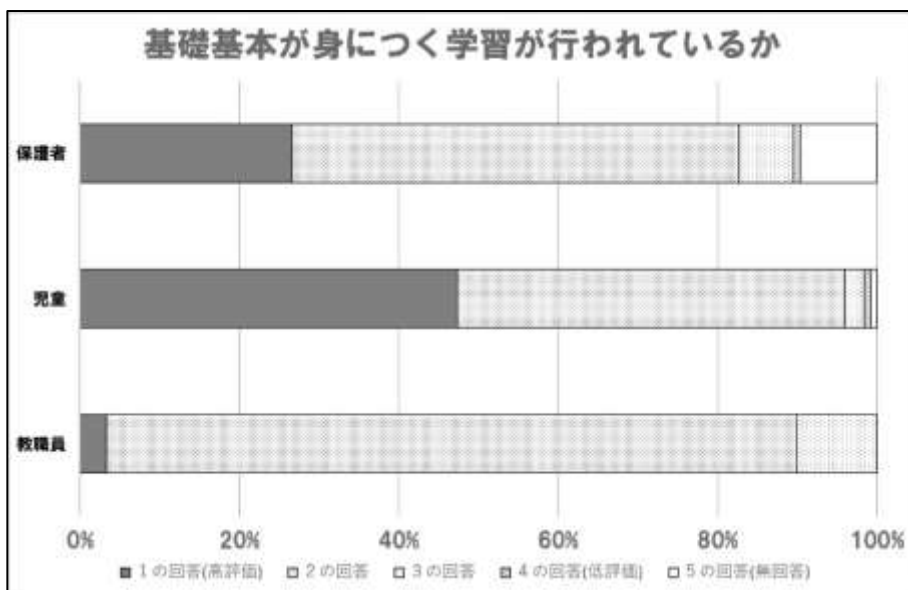


令和3年度 学校評価 結果と今後の取組について

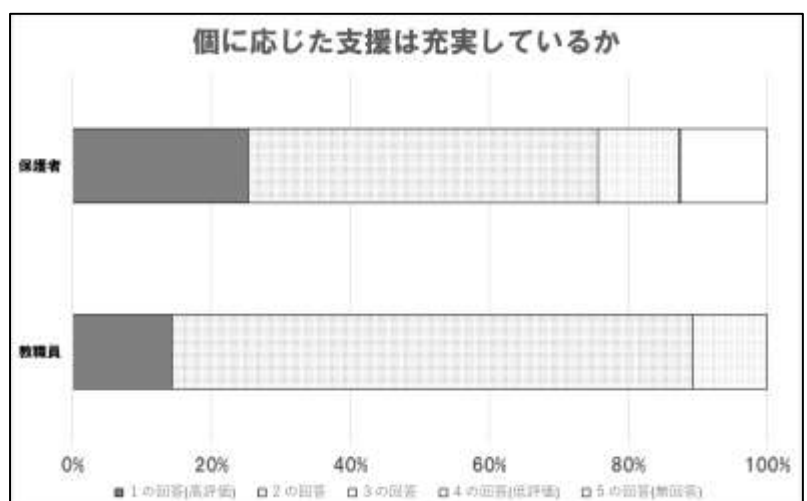
早春の候、保護者の皆様にはご健勝にてお過ごしのこととお喜び申し上げます。新型コロナウイルス感染拡大による分散登校を乗り越えた令和3年度の学校生活も、残りわずかとなりました。毎日のマスク着用、手洗い等、一人ひとりが対応に気を付けながらがんばってきました。今、子どもたちは進学、進級というそれぞれの次のステージに向けて、この一年間のまとめに取り組んでいるところです。

さて、年末に行いました「学校評価アンケート」では、昨年度より60名ほど多い「約320名」からの回答をいただきました。このアンケートは保護者や地域のみなさんと一緒に子どもたちを育てていくための大変貴重なご意見をいただける機会です。また、今年度はICT機器を活用し、児童へもアンケートを実施しました。保護者の皆様だけでなく、学校の主役である児童の意見も分析しながら、令和4年度のよりよい希望ヶ丘小学校の学校運営に生かしていきたいと考えています。ご多用な時期の実施となりますが、今後ともご協力をお願いいたします。

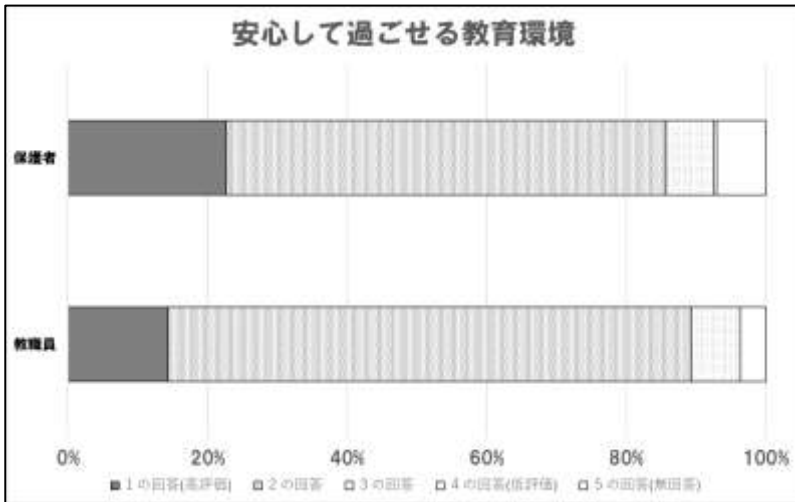
1 生きてはたらく知



保護者、児童ともにおおむね満足できる学習指導ができていると評価をいただきましたが、教職員側では更なる研鑽が必要と捉えています。学習面ではノートやテスト、宿題等へのコメント、返却時の励ましの声掛けなどの取組、生活面では一人ひとりに応じた励ましや指導、思いの汲み取りなど強化を今後も行っていく必要があると考えています。

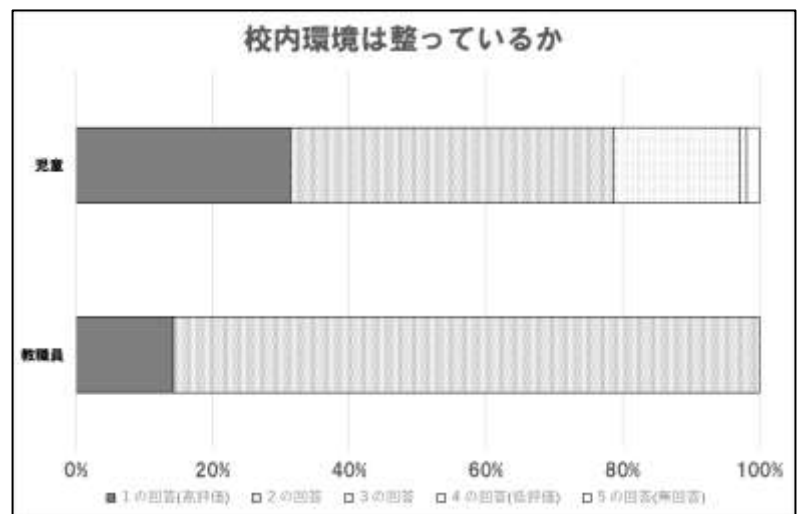


2 教育環境整備

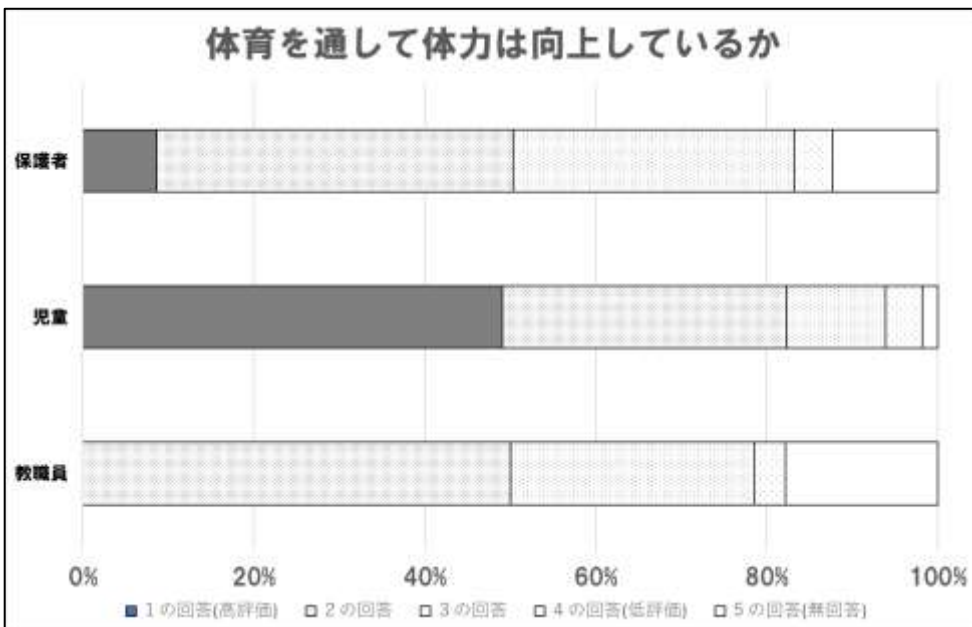


安心して過ごせる教育環境については、おおむね好評価をいただきました。

校内環境については、教職員の評価に比べて児童の評価が低めでした。「もっときれいで整った学校、教室がいい」という思いを実現できるよう、日々の清掃活動などの取組を見直していきます。

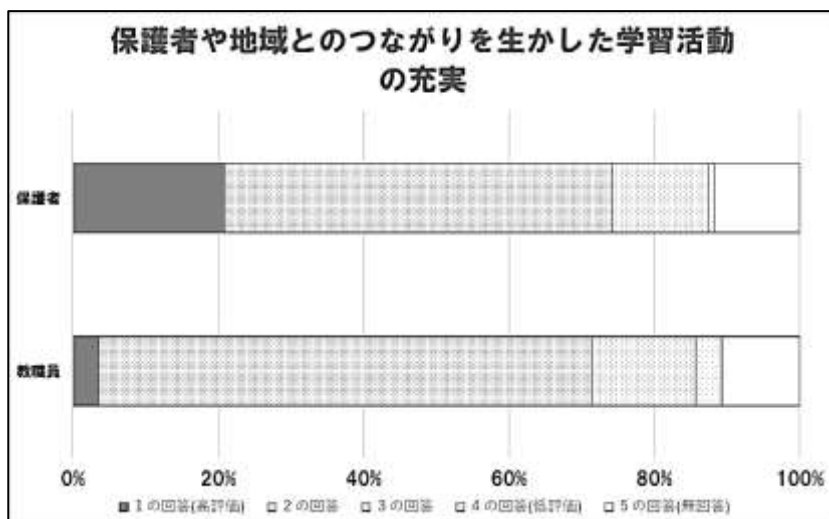
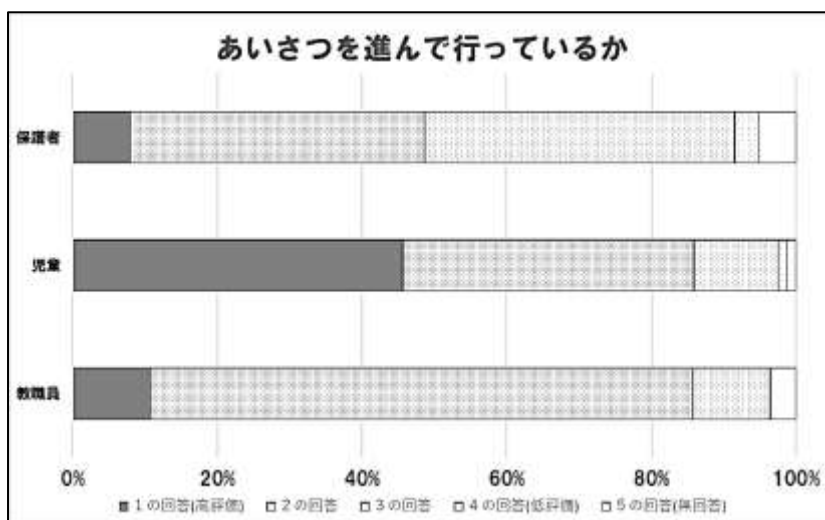
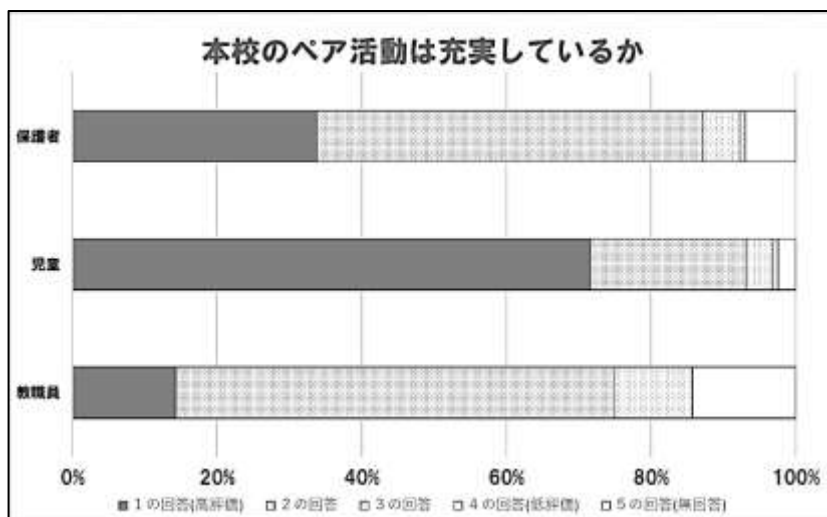


3 健やかな身体



様々な制約がある中の体育の学習ですが、子どもたちは記録の向上やできることが増えたことなどから、体力が向上していると考えています。教職員から見ると、体力テストの結果や日々の体育の学習の様子から、まだ体力の向上がはかれると考えています。学習指導の研鑽を積み、一人でも多くの子が「できる喜び」「体を動かす楽しさ」を感じられるような指導を行っていきます。

4 豊かな心

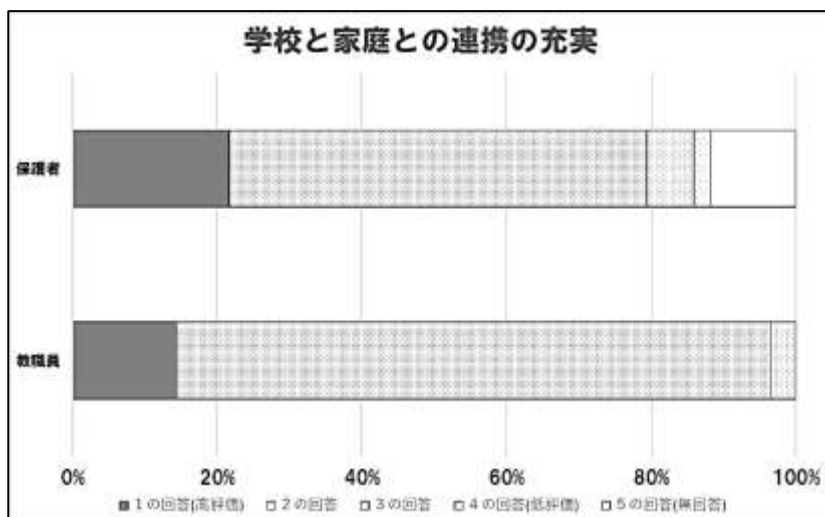
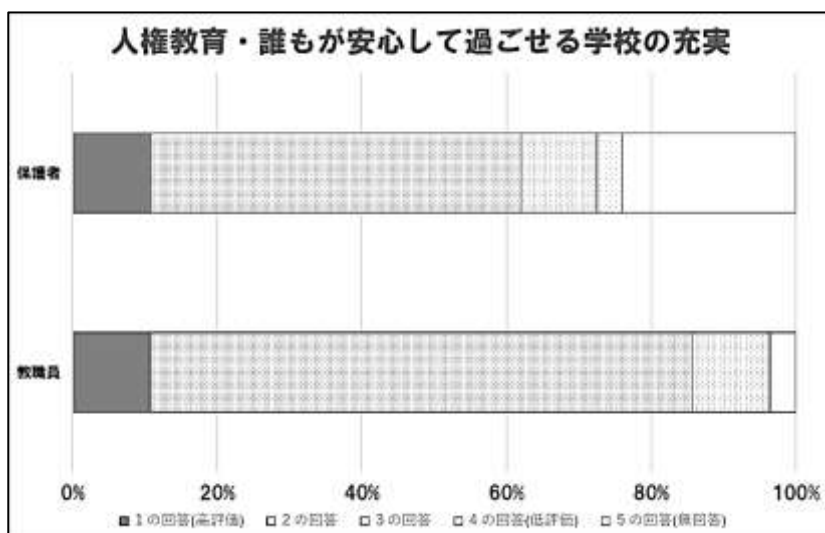
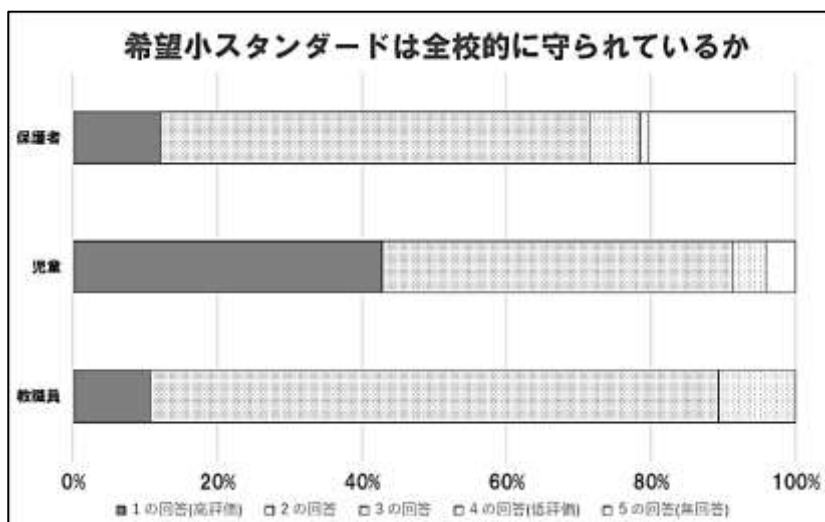


コロナ禍で中止という選択肢しかなかった昨年度に比べ、小規模でも今年度はロング昼休みの活動を始めとして、ペアでの活動を実施してきました。スポーツフェスタや読書郵便などの取組、校外学習の際のプレゼントなど、様々な取組を行うことで、児童の充実感につながっていると考えます。制約がある中でも、まだまだ可能性を模索し、より充実した取組ができるよう考えていきます。

あいさつについては、児童は頑張っている意識をもっており、実感としても校内でのあいさつの声は増えてきたように感じます。ただし、校外でのあいさつには課題があると保護者の皆様からの意見を見て感じていますので、「いつでも」「だれでも」「どこでも」あいさつができるように、様々な場面で指導を続けていきたいと考えています。

大々的に保護者の方のサポートをお願いできない状態が続きますが、子どもたちはブックルズさんや家庭科ボランティアさんの支援を借りて学習できていることを理解しているようです。今後とも、ご協力をお願いいたします。

5 児童生徒指導



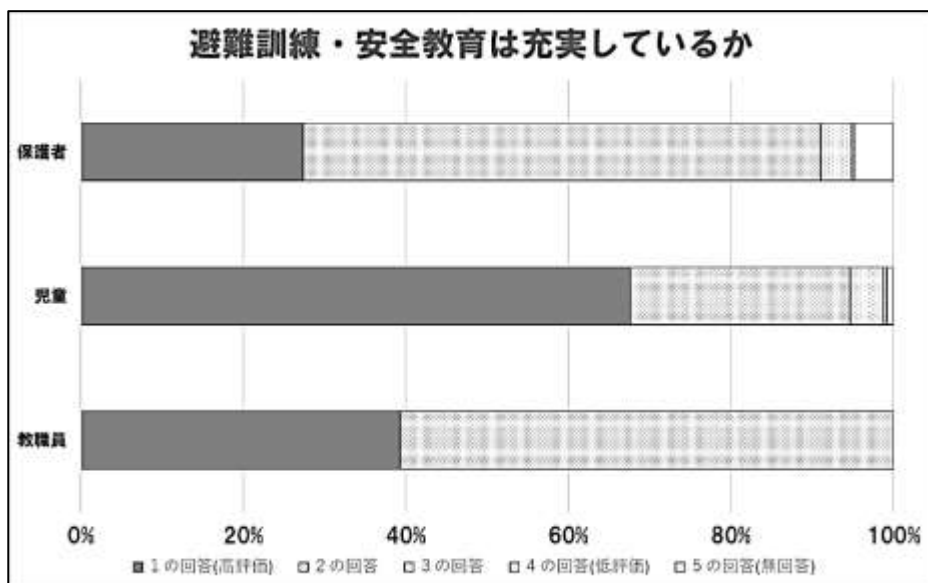
「前の先生と違う」や「隣の先生と違う」という子どもの戸惑いを無くし、安心して学校生活を送るために創設したのが「学校スタンダード」です。

4月に全児童に配付し、各クラスで確認しています。上履きには決められた場所に決められたように名前を書く、文房具であろうとキャラクターグッズは持ってこない、など、様々な分野にわたり指定させていただいています。社会情勢などを踏まえながら年度更新していきますので、ぜひ保護者の皆様もご協力をお願いします。

今年度は保護者の方の協力をいただき、人権週間の取組として講演をしていただきました。こういった取組の他に、道徳教育や日々の学級経営を通して、人権意識を高め、自分を取り巻く周りの人たちと手を取り合って高め合える児童の心の育成に努めます。

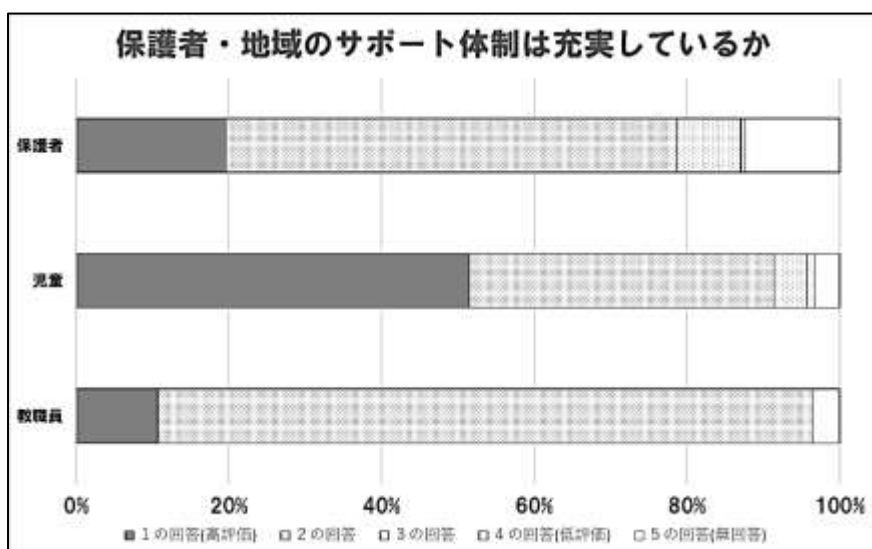
また、そのためには学校と家庭との連携を更に密にしていく必要があることも感じました。その日のお子さんのがんばりや様子などをお伝えするために、放課後に電話させていただくこともあります。テレワーク等で保護者の皆様も忙しい時間帯等あるかとは思いますが、家庭と学校、地域の三者でそれぞれが担う側面を成長させていきたいと考えていますので、今後もどうぞよろしくお願いいたします。

6 安全教育



保護者の方から、「災害はいつ起こるか分からないので、予告をする必要はないのではないのでしょうか。」
 「雨が降っていても災害は起こるので、雨天時でも実施するべきではないのでしょうか。」という核心をつくご意見を頂戴しました。その通りだとは思いますが、1～6年生という幅広い年齢層がいますので、「実際に発災したときに自分で最低限の行動ができるようになる」ことを目標に訓練をしています。3.11 を経験している教職員は、より現実的な訓練になるよう、今年度から「3月の卒業式練習中、緊急地震速報が流れた」という想定を追加しました。このように、年度ごとに必要性や児童の訓練の様子などを踏まえ、本当に起きたときに活用できる避難訓練を考え、取り組んでいきます。また、コロナ禍で二年間実施できていない「引き取り下校訓練」も、時期を早めて実施するかどうかを検討しています。いつ来るか分からない大地震に備え、子どもの安全、安心のためにできる最大限の取組を行っていきます。

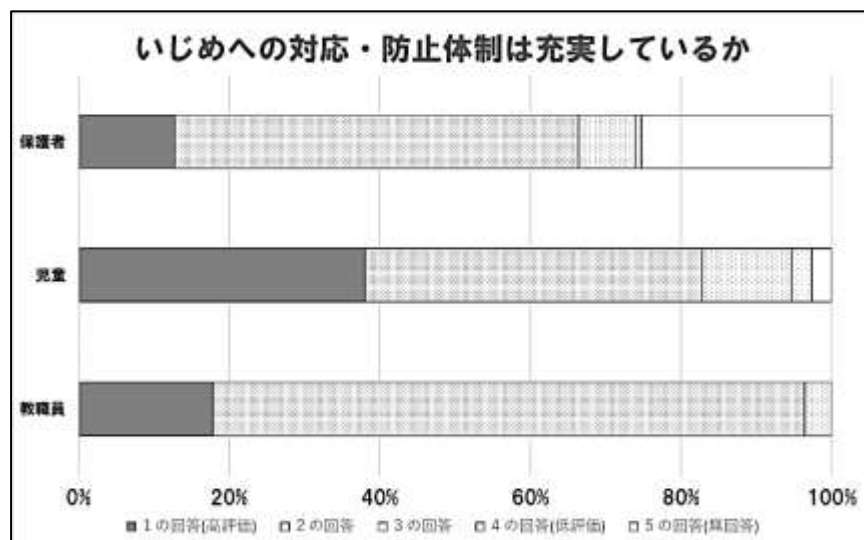
7 地域連携・学校運営協議会



コロナ禍で外部の方を招くのは難しい情勢が二年間続いています。コロナが収束した後は、ブックルズ、家庭科サポーター、ひまわり先生を中心に、さらに外部の学習支援者の協力の幅を広げたり、音楽ボランティアを再開したりして、地域の教育力を学校が生かしていけるように考えています。

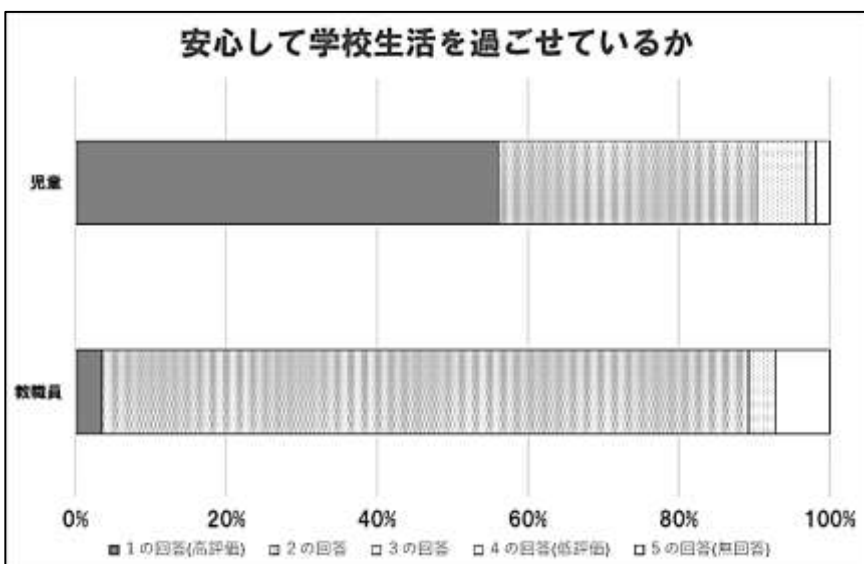
家庭で宿題を行うことが困難な児童のために、放課後学習支援教室など横浜市の事業の導入なども検討し、子どもの学びがより充実するようにしていきます。

8 いじめへの対応

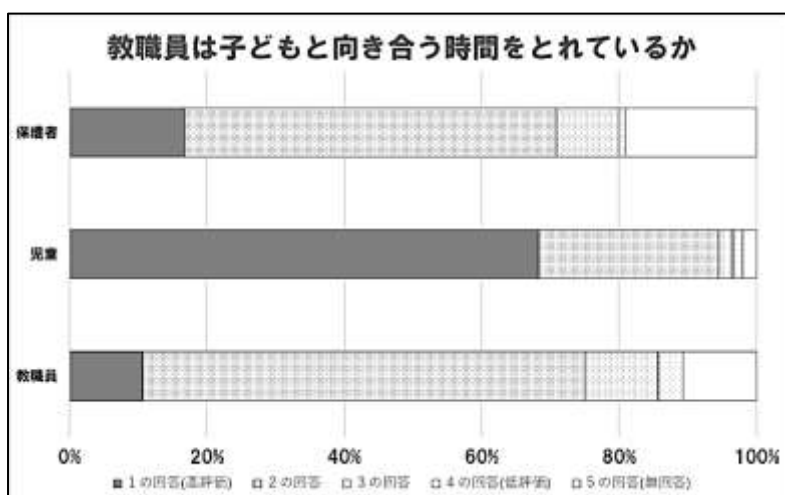


保護者の方の回答は「分からない」の割合が多めでした。アンケート、面談の実施については、昨年度の学校評価の結果でもお知らせしているところですので、ぜひご確認をいただければと思います。日々の子どもの様子を見て「元気ないかな?」と感じたり、周りの子が「かわいそうなんだよ」「いやなこと言われているんだよ」と先生に報告がしやすいようにしたり、防止体制はより充実していくように教職員でも研修を重ねているところです。

児童はおおむね「安心して学校生活を過ごしている」と回答していますが、「安心して過ごせていないと回答をしている子がいる」ことをきちんと理解し、3や4の回答が0人になることを目指して、学校づくり、学年づくり、学級づくりに努めていきたいと考えています。



9 人材育成・組織運営



児童の回答からは、先生との時間におおむね満足している様子がみてとれました。保護者の方からは「面談でとても細かなところまで伝えてくれる」「先生と遊んだエピソードを家で話して、楽しい様子で安心した」「ちょっとしたことで褒められて嬉しかったよう、普段あまり学校のことは話さないが、すぐ話してくれた」など、嬉しい意見をいただきました。今後も、ICTの活用や教科担任制などを充実させていくことで、子どもと向き合う時間を増やし、一人ひとりが安心して笑顔で過ごせる学校にしていきたいと考えています。